

2015年4月 メディカルはこだて第54号 掲載 『ドクタークローズアップ』

放射線科 高橋 千尋 科長

DOCTOR

ドクター
クローズアップ

closeup ①

函館中央病院放射線科科長

高橋 千尋 氏



たかはしちひろ

平成元年北海道大学医学部卒業。

同年北海道大学病院勤務。

平成10年米国ロチェスター大学医学部入局。

平成14年北海道大学病院勤務。平成15年函館中央病院放射線科勤務。同18年函館中央病院放射線科科長就任、現在に至る。

放射線診断専門医、NR懇話会世話人。

緒に主治医へ送ります」。

最近はアルツハイマーや認知症に関する開業医からの依頼も増えているが、認知症が疑われる場合には脳血管障害など脳の疾患のケ

ースも少なくない。近年はMRIやCTなど画像検査の進歩が著しく、画像解釈も高度で複雑になっていて。

「非常に優れた診断能力を持つ画像検査は、一方で身体に害を及ぼしかねない放

射線や電磁波を使用するという危険な側面も持ち合わせていますので、最先端の検査を有効に、かつ安全に行うためには専門知識を有する診断医が必要とされる

ようになっています」。

高橋医師は「患者さんにとつて画像検査は大きなイベントでとても重みがありますので、一つひとつ大切に読影し、なるべくわかりやすいレポート作成を心がけている」と話す。

最先端の画像検査を有効、安全に実施する 神経放射線を専門とする放射線診断専門医

函館中央病院放射線科の
高橋千尋医師は道南では唯一の神経放射線を専門とする放射線診断専門医だ。

札幌生まれの高橋医師はクラシックギターのセミプロだつた父の影響から、中学生・高校では音楽の道を進むことについていたが、高校3年生のときに教師の助言が転機となつて、医師への道を志すことに決めた。

北海道大学医学部へ進学、診断は神経放射線と胸部・

卒業後は同大学の神経内科に入局する。「神経系の何処に障害があるのか、その部位と原因により様々な症状がですが、難しい診断技術に興味を持ちました」。

札幌生まれの高橋医師はクラシックギターのセミプロだつた父の影響から、中学生・高校では音楽の道を進むことについていたが、高校3年生のときに教師の助言が転機となつて、医師への道を志すことに決めた。

腹部に分かれている。高橋医師は画像診断の神経放射線を専門領域とし、平成10年からは数多くの医療用実験装置を備えた医学研究センターのある米国ロヂエス

ルニア、腰部脊柱管狭窄症など脳や脊椎の画像診断を担当している。

画像診断の流れは「主治医が画像検査を必要と判断した場合、疑われる疾患名や画像検査に至つた目的が記された検査依頼書が届きます。診断医は依頼書に基づき有効な検査条件を組み立て、技師が検査を実施。診断医は検査後の画像を読影、所見と診断名を記した

報告書を作成し、画像と一緒に提出する」と説明する。報告書を作成し、画像と一緒に提出する。この報告書は、診断医が検査の結果を説明する際の参考となる。報告書には、検査の目的、検査の結果、診断の結果などが記載される。報告書は、診断医が検査の結果を説明する際の参考となる。報告書には、検査の目的、検査の結果、診断の結果などが記載される。